

S19a 「あかり」遠赤外線全天点源カタログ改訂版の公開

山村一誠、巻内慎一郎、小山舜平、古賀達也 (ISAS/JAXA)、「あかり」チーム

赤外線天文衛星「あかり」は、2006～2007年にかけて遠赤外線・中間赤外線合わせて6波長で全天サーベイを行った。これに基づくデータプロダクトとして、全天点源天体カタログが2010年3月に一般公開され、天文学研究に広く用いられている。また、2014年12月には、遠赤外線全天イメージマップが公開された。

遠赤外線点源カタログ (AKARI-FIS Bright Source Catalogue; BSC) については、初版の公開後も改訂版作成の作業を継続して行っており、このたび第2版を公開することになった。初版と同じく、65, 90, 140, 160  $\mu\text{m}$  の4波長での天体の明るさを記録したこのカタログは、初版と比べて登録天体数が約10万増えたことに加え、検出の信頼度、位置、測光精度の向上が見込まれている。また、BSCがスキャン1回に相当する感度で全天に対して均一なデータを提供するのに対し、スキャンを重ねたところでより暗い天体を検出する Faint Source Catalogue (FSC) の作成も行われ、合わせて公開される予定である。講演では、これらカタログの作成方法、データの内容、評価の結果等について説明する。

「あかり」の衛星運用は2011年に終了したが、「あかり」の残した貴重なデータを天文学研究に有効に活用するため、「あかりデータ処理・解析チーム」が、全天サーベイに加えて指向観測についても、“Science Ready” データとして公開するべくデータ処理・解析・アーカイブ活動を行っている。これらのデータについても簡単に紹介する。是非「あかり」データを研究に活用いただきたい。